

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 伊 丹

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>現在の高齢化率は県平均と同レベルであるが、今後は高齢者数が増え、要介護者も増える見込みであり、地域包括ケアシステムにおける高齢者の低栄養予防・重症化予防の取り組みが必要である。</p> <p>当所管内で平成26年度から実施している栄養情報連携について、栄養管理ファイルの作成・受取件数が減少傾向にあり、在宅療養者の低栄養・重症化予防への活用状況も把握ができていない。</p> <p>地域包括ケアシステムの中で在宅療養者とその家族を直接支援する介護職等（以下、支援者という）に対し、食や栄養に関する専門的な助言・支援を行う体制ができていない。</p>
今年度の推進方策	<p><栄養情報連携の継続支援></p> <p>栄養管理ファイルの作成数、特に施設から在宅に帰る療養者（高齢者）への作成数を増やすことで、在宅療養者・家族・支援者への普及を図る。</p> <p><在宅療養者に関わる介護支援者に対する栄養・食支援の充実></p> <p>地域包括ケアシステムの中で、支援者施設や地域の栄養士との連携を図り、支援者に対して食や栄養に関する専門的な助言を行うための体制の整備を図る。</p>
成果	<ul style="list-style-type: none">・研修及び摂食嚥下ツールの作成過程で栄養情報連携の意義を再確認することができ、実施意欲の向上につながった。・事業調整の過程で、行政、在宅介護関係者、地域の栄養士の連携のきっかけを作ることができた。・各市町の目指す地域包括ケアシステムについて、地域の栄養士の理解が不足していることが分かり、人材育成の必要性が明らかになった。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none">・行政、在宅介護関係者が地域の栄養士に相談できる体制をすすめる。・在宅療養者の食支援に関するニーズ把握・在宅療養者の栄養・食支援を担う人材の育成（療養者を直接支援する在宅介護関係者及び栄養士のスキルアップ）

2 会議の開催状況

実施日時	平成31年3月6日（水） 14:30～17:00
参集者 (団体数 及び人数)	行政（管内市町 介護保険担当課 保健担当課） 4団体 4名 病院・高齢者施設（栄養管理連携パス導入施設） 11団体 12名 栄養士会 3団体 20名 計 18団体 36名
協議内容	<ul style="list-style-type: none">・在宅療養者の栄養・食支援に関する問題点について・在宅療養者の栄養情報連携について
今後の方策	<ul style="list-style-type: none">・行政、在宅介護関係者と地域の栄養士との連携強化・在宅療養者の栄養・食支援を担う人材の育成

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	在宅療養者の栄養・食支援		
対象及び参加者数	①在宅高齢者及びその家族、介護支援者、一般住民	140名	
	②病院・高齢者施設職員	17名	
	③病院・高齢者施設管理栄養士	延べ15名	
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	平成30年 12月2日(日) 9:30~16:30 [アステホール]	①低栄養予防の普及啓発 川西市主催食育イベント「みんなの健幸フォーラム」において、展示・体験ブースを出展し、高齢者の低栄養予防啓発を実施	健康福祉事務所 川西地区給食研究会 川西市
	平成30年 9月27日(木) 15:00~17:00 [JEC日本研修センター伊丹]	②栄養管理連携パス運用連絡会 栄養管理ファイルの効果的な運用について研修を行い、在宅療養者への普及について意見交換を実施。	健康福祉事務所 栄養管理連携パス ワーキング施設
平成30年 10月17日(金) 平成31年 2月13日(水) 14:00~16:00 [協立温泉病院]	③「食形態マップ」の作成検討 療養者・家族・支援者(介護職等)からの食・栄養に関する相談に応じる際に活用するための摂食嚥下ツールの作成を検討。	川西地区給食研究会 健康福祉事務所	
成 果	<p><栄養情報連携> 【成果】 栄養情報連携の継続意義が確認でき、実施意欲の向上につながった。 【評価指標と目標値及び達成状況】 栄養管理ファイル記載件数(目標:増加) 全体 H29.4~12月 257件 H30.4~12月 52件 在宅 H29.4~12月 369件 H30.4~12月 92件</p> <p><在宅療養者に関わる介護支援者に対する栄養・食支援の充実> 【成果】 ・食形態マップの大枠が作成できた。 ・食育イベントでの低栄養予防啓発は、比較的元気な高齢者への啓発につながった。一方で介護支援者の来場が少なく、成果としては不十分であった。 【評価指標と目標値及び達成状況】 設定無し 次年度要検討</p>		
今後の課題	<p><栄養情報連携> ・在宅での栄養情報の活用状況が不明な点であり、他職種に対する普及、活用事例の収集が必要。 <在宅療養者に関わる介護支援者に対する栄養・食支援の充実> ・次年度中に食形態マップを完成し、有効に活用するための運用ルールを作成し、関係機関と共有する。</p>		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

在宅療養者の栄養・食支援

現状と課題

- ◆栄養管理連携パスによる栄養情報連携
 - ・H26年度～管内病院・施設と連携して運用
 - ・栄養管理ファイルの記載・受取件数が減少傾向
 - ・在宅における活用の状況の未把握
- ◆地域ケア会議での専門的助言
 - ・管内市町が在宅医療介護連携会議や地域ケア会議を立ち上げ
 - ・在宅療養者の食支援について、適切な助言を行える人材の確保
- ◆在宅療養者の栄養ケアの拠点の整備
 - ・在宅療養者や介護支援者が栄養・食事について相談する窓口が無い
 - ・県栄養士会が認定栄養ケア・ステーションの整備を検討中



今年度事業のねらい

- ・栄養情報連携の継続支援【会議・実践活動①②】
- ・在宅療養者に関わる介護支援者に対する栄養・食支援の充実【会議・実践活動①③】

【食育実践活動①】高齢者の低栄養予防の普及啓発

平成30年12月2日(日) アステホール(川西市)

川西市主催の食育イベントに「高齢者の食生活応援コーナー」を設置

※展示ブースは健康福祉事務所 体験ブースは川西地区給食研究会が担当

参加者：在宅高齢者とその家族、介護支援者、一般住民 140人



栄養管理連携パスの紹介



高齢者の食事のポイントを紹介



摂食嚥下機能を意識する体験



とろみ剤の使い方を説明

【食育実践活動②】栄養管理連携パス運用連絡会の開催

平成 30 年 9 月 27 日（木） JEC 日本研修センター伊丹

テーマ：『医療と介護の連携』を巡る制度改正と栄養管理連携パスのこれから

実施内容：情報提供・意見交換

参加施設：管内病院・高齢者施設
18 施設 18 名

- ★栄養管理連携パス継続のためのモチベーション Up
- ★在宅での活用のためには他職種への周知が必要

【食育実践活動③】摂食嚥下ツールの作成検討

平成 30 年 10 月 12 日（金）協立温泉病院
平成 31 年 2 月 13 日（水）協立温泉病院

川西地区給食研究会による、療養者・家族・支援者（介護食等）からの栄養・食に関する相談に応じるための摂食嚥下ツール「食形態マップ」の作成検討

参加施設：川西地区給食研究会会員施設
延べ 15 施設 15 名

- ★病院・高齢者施設の食形態を共有
石川県栄養士会作成「I スケール」参考に作成中
- ★次年度完成予定



【健やか食育推進会議】在宅療養者の栄養・食支援に関する意見交換会

平成 31 年 3 月 6 日（水）伊丹庁舎会議棟



栄養管理連携パスや栄養ケア・ステーションの役割など、取り組みの現状を報告

「何が必要か」
「自分たちに何ができるか」
を意見交換



<参加団体>

行政

伊丹市介護保険課
伊丹市健康政策課
川西市健幸政策課
猪名川町健康づくり室

病院・高齢者施設 11 施設
(栄養管理連携パス参加施設)
伊丹市栄養士会
川西猪名川地域活動栄養士会
長寿の会

今後の方向性

- ・行政、在宅介護関係者と地域の栄養士との連携強化
- ・在宅療養者の食支援に関するニーズ把握と支援者研修の実施
- ・在宅療養者の栄養・食支援を担う人材の育成（栄養士のスキルアップ研修）